

編集後記

読者の皆様は既にご存じのとおり、整形外科を意味する「orthopaedic」という語は、ギリシャ語の「orthos（まっすぐにする）」と「pais（paidos）（子ども）」に由来します。18世紀にNicolas Andryが著した『L'Orthopédie』（1741年）においてこの概念が体系化され、「子どもの変形を矯正する学問」として本領域が位置づけられました。曲がった若木を支柱で正す挿絵は、整形外科の理念を象徴する図として世界中の様々な施設で今日まで受け継がれています。その理念を象徴するシンボルマークを掲げる日本整形外科学会は、今年創立100年を迎えますが、その出発点が小児疾患にあったことを思えば、小児整形外科はまさに本領域の原点であるといえます。

運動器は成長と成熟という時間軸の中で形態と機能を確立していく動的な組織であり、その发育過程に生じる異常を理解することは、整形外科疾患の本質を理解することに直結します。とりわけ股関節は支持性と可動性を兼ね備え、二足歩行を獲得した人類にとって極めて重要な関節です。小児期に生じる病態は将来の関節機能、さらには変形性股関節症の発症とも密接に関係するため、診断や初期対応のわずかな違いが、数十年後の関節予後を左右することにもなりかねません。そう考えると、小児整形外科は将来を見据えた極めて重要な領域であり、大きな責任を伴う分野である

といえます。

鬼頭浩史先生にご企画いただいた今月号の特集では、まず小児股関節疾患診断におけるピットフォールを整理し、診断の基本を改めて確認した上で、发育性股関節形成不全症、Perthes病、小児期発症大腿骨頭壊死症、大腿骨頭すべり症、化膿性股関節炎、外傷性疾患、炎症性疾患、麻痺性疾患、さらに股関節周囲に発生する骨腫瘍まで、小児股関節疾患を体系的に網羅する構成となっています。各領域の第一線で診療にあたる先生方により、診断の要点、治療戦略、長期予後を見据えた視点が提示されており、日常臨床に即応可能な内容に仕上がっています。画像診断や低侵襲治療の進歩は著しいものがありますが、治療の目標は単なる形態学的整復や短期的改善にとどまるものではありません。成長という可塑性をいかに活かし、将来の関節障害をどのように予防するかという視点こそが、小児股関節診療の核心といえるでしょう。

整形外科の歴史的原点に立ち返りつつ、現代の知見と技術を統合する姿勢が、これからの小児股関節診療に求められています。本特集が、小児股関節疾患の診断と治療を体系的に整理する一助となり、日常診療の質の向上に寄与するとともに、整形外科医がその原点を改めて見つめ直す契機となれば幸いです。

（谷口 昇）

「整形・災害外科」第69巻 第4号（4月号） 2026年4月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 49,940 円（本体 45,400 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 前田 達也 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036
---	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・教育機関、医療機関、企業などにおいて本誌を無断で複製すること（コピー、スキャン、デジタルデータ化など）は「私的使用」など著作権法上の限られた例外にはあらず、違法となります。また、限られた例外に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して複製を行うことは違法となります。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。
- ・本誌を AI（人工知能）分野に関する用途で許諾を得ずに利用する行為は、当社の利益を不当に侵害する可能性があります。必ず事前に当社までお問い合わせください。